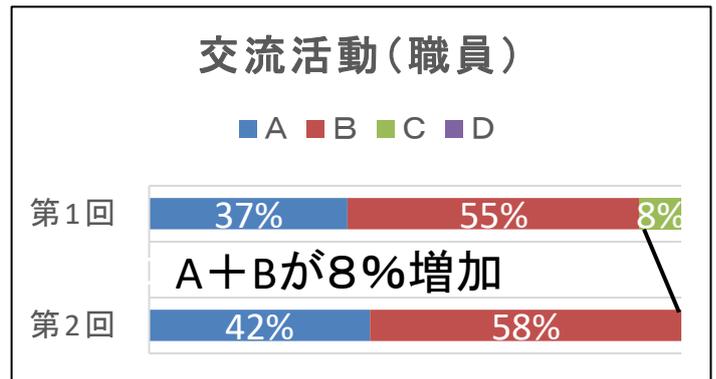
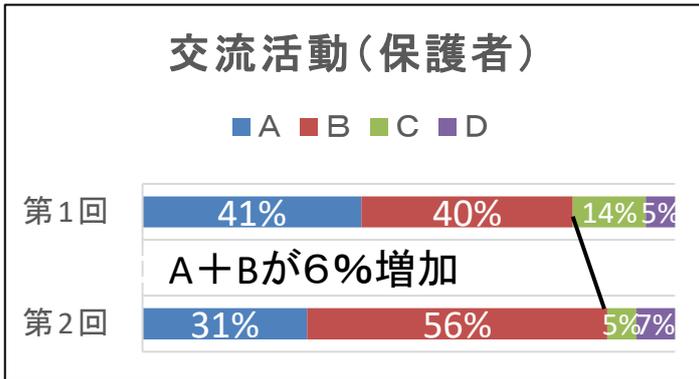
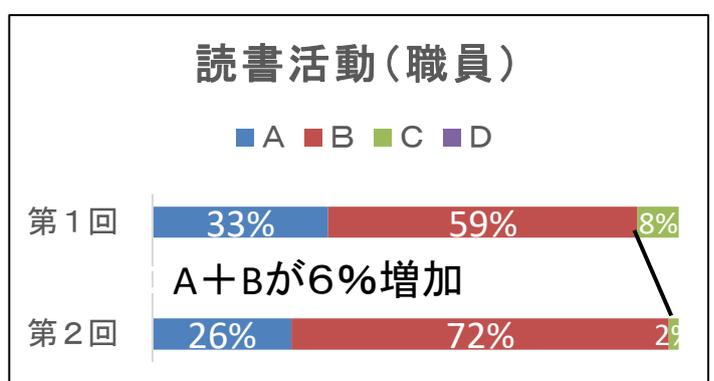
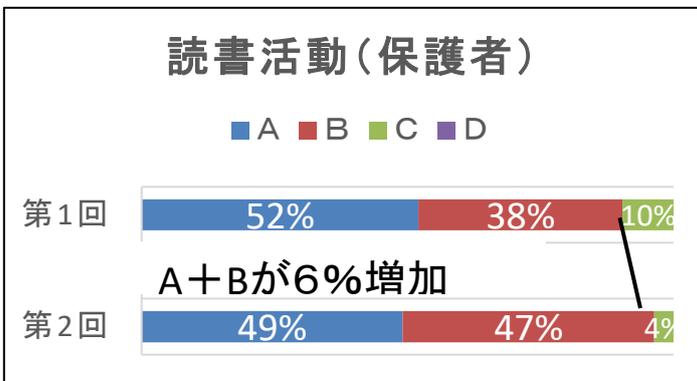


1 向上したもの

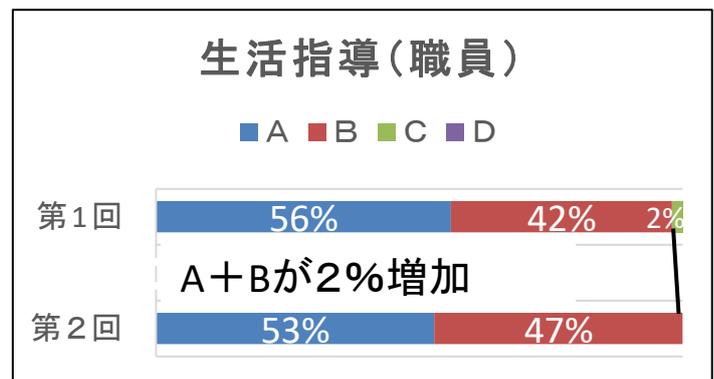
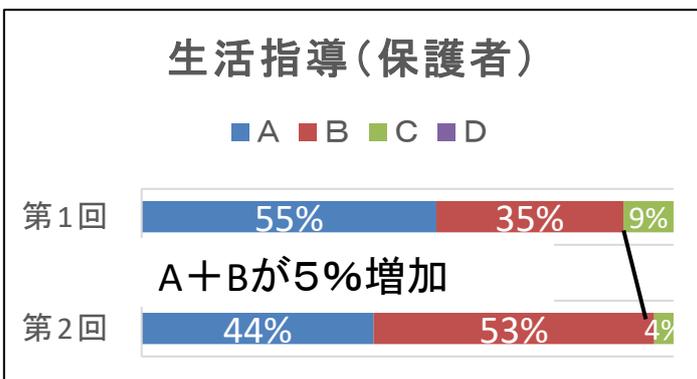
(1)地域の保育園・幼稚園や学校との交流、地域に貢献する活動、大会への参加等、感染症対策に配慮しながら意義ある体験の計画や実施がなされている。



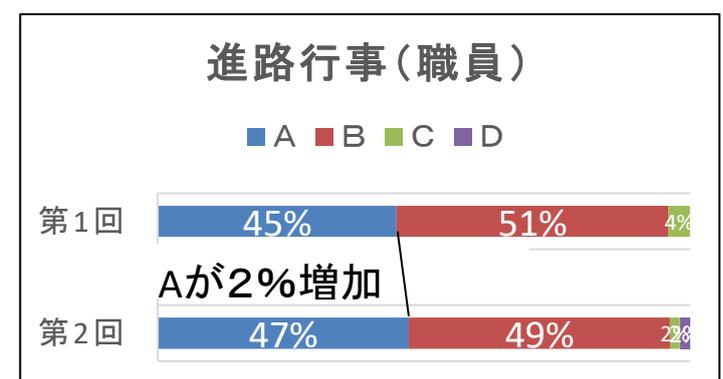
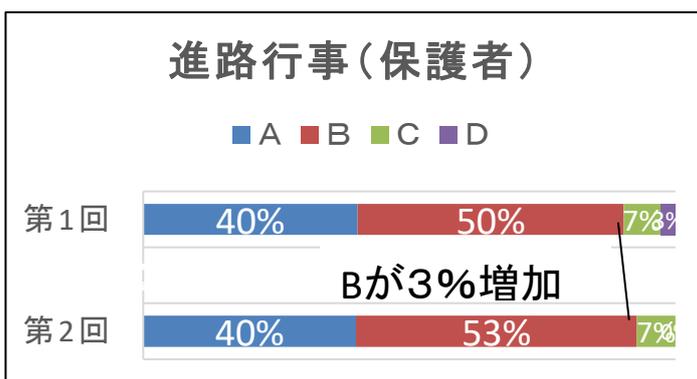
(2)学部や発達段階に応じて、本の読み聞かせ、図書の紹介、委員会活動、放課後読書活動、教科学習との関連づけ等をし、読書好きな子どもを育てている。



(3)お子さんの生活指導(あいさつ等の基本的な生活態度、いじめ防止、教育相談等)について、家庭、学校、必要に応じて関係機関(スクールカウンセラー等)で情報を共有しながら取り組んでいる。



(4)地域の学校や事業所の見学、卒業生の話を聞く会等、校外の資源と連携した進路行事が感染症対策を講じながら適切に計画・実施されている。



2 下降したもの

- ・保護者による外部アンケートで、2パーセント以上の下降はなかった。

3 まとめ

- ・第1回と比較し、保護者による外部評価と職員による内部評価ともに評価の上がった項目が多かった。
- ・交流活動について、2～3学期は居住地校交流や各種大会、他校との交流活動が年度当初から計画されており、感染症対策を講じ、効果のある交流活動を実施できた。
- ・読書活動は、外部講師の手話での読み聞かせ、読書通帳、委員会活動、放課後読書での図書紹介など、読書に取り組むきっかけづくりをした。
- ・生活指導では、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーと連携し幼児児童生徒の心理的安定を図った。いじめ防止や社会的マナー遵守について、家庭の協力を得ながら、学校全体で時宜にかなった支援をした。
- ・進路行事は、各学部保護者会で進路講話を実施し、社会でどのような力が必要とされているか家庭と情報共有した。進路行事では保護者向けにZOOM参加も募り、進路選択の際に家庭でも支援できるようにした。